

03.

日本超音波検査学会

日本超音波医学会 50周年に寄せて

戸出 浩之

(一般社団法人日本超音波検査学会理事長)

社団法人日本超音波医学会50周年にあたり、心よりお祝いを申し上げます。超音波技術が医学に応用されはじめた初期の時代から現在に至るまで、我国のみならず世界の超音波医学をリードし、その学理と技術の発展に寄与されてこられた貴学会の歴史に対し、深い敬意を表します。貴学会の大きな特徴のひとつとして、医学（Medicine）と工学（Engineer）が同等の立場で超音波医学を議論し、協調してその発展に努められてきたことがあると思いますが、その姿勢こそが貴学会の輝かしい歴史を作ってきた大きな要因のひとつだと考えます。現在の超音波検査は、あらゆる領域の臨床研究や医療現場において、不可欠な検査法になっています。そして、その超音波検査を構成する要素として、医学と工学に加えて、技術（Technologist）があると考えられます。私ども日本超音波検査学会は技術をもって超音波検査を支える技術者の集まりであり、貴学会のご指導ご支援をいただきながらこれまで活動を続けてまいりました。ここでは、貴学会との関わりも交えながら日本超音波検査学会の成り立ちや活動などをご紹介させていただきます。

1971年の法改正で超音波検査を臨床検査技師が行えるようになり、技師同志の情報交換と勉強の場の必要性を感じていた古木量一郎氏（北里大学病院）が、和賀井敏夫先生（順天堂大学、現貴学会名誉会員）にご相談したことが現在の日本超音波検査学会が発足するきっかけです。和賀井先生のご理解とご尽力により、貴学会および日本電子機械工業会の了承をいただくことができ、1974

年10月に全国から20名の技師が集まり、古木氏を会長として前身である「日本超音波検査研究会」が発足いたしました。研究会の当初の目的は、超音波検査技術の向上と検査の普及であり、数か月に1回の勉強会開催から始まり、翌1975年には第1回研究発表会、および第1回の超音波講習会が開催されました。また、1976年には機関紙「超音波検査技術」が創刊されました。超音波の普及が進むにつれ、地域に根差したきめの細かい活動も必要となり、各地に支部が結成されました。各支部の顧問として、福田守道先生（北海道大学、現貴学会名誉会員）、田中元直先生（東北大学、現貴学会名誉会員）、和賀井敏夫先生、岡 益尚先生（大阪大学、故人、貴学会名誉会員）、井出正男先生（武蔵工業大学、故人、貴学会名誉会員）らにご就任いただき、当時、貴学会で中心のご活躍されていた先生方のご指導を直接仰ぐことができました。研究会発表会や超音波講習会はその後も定期的で開催され、機関紙とともに研究会活動の主体となってまいりました。

1985年、貴学会に超音波検査士制度が発足し、第1回の試験が6月に実施されました。この時の合格者は、消化器領域38名、循環器領域14名、産婦人科領域5名、体表領域2名でした。第2回試験は翌々年の2月に実施され、このときから貴学会会員だけでなく、日本超音波検査研究会の会員にも受験資格が認められました。このことは、超音波に携わる技師の育成と検査の普及に関して、日本超音波検査研究会のそれまでの地道な活動を評価下さったものと考えております。超音波

検査士制度は、我国全体の超音波検査のレベル向上に寄与するとともに、超音波に携わる技師の意欲と社会的知名度を著しく向上させました。また、受験資格を認められたことは日本超音波検査研究会のその後の急激な会員増加の一因となり、超音波検査士制度は日本超音波検査研究会にとって大きな転機となりました。図1にこれまでの日本超音波検査学会（日本超音波検査研究会）会員数の動向を、図2に第1回（1985年）から第25回（2010年）の超音波検査士認定試験合格者数と領域を、図3に超音波検査士認定試験合格者の所属学会の内訳を示します。

1995年、日本超音波検査研究会は日本超音波検査学会と改称し、それまでの超音波の普及を主体とする活動から、学術面の充実に努めるとともに、会員数に見合う組織づくりにあたってまいりました。2002年から順次出版した「心臓超音波テキスト」、「腹部超音波テキスト」、「血管超音波テキスト」は現在でも超音波に携わる技師の教科書として利用され、各施設で新人技師の教育や日常検査に役立っています。時代のニーズに応じ、ホームページを活用した会員サービスにも取り組み、いくつかの新しい企画もスタートいたしました。

また、超音波検査士の受験者は増加の一途をたどり、受験や資格更新に際して、事務処理をスムーズにして会員の負担を少なくするために、両学会間の情報交換を密に行うことも実施されるようになりました。

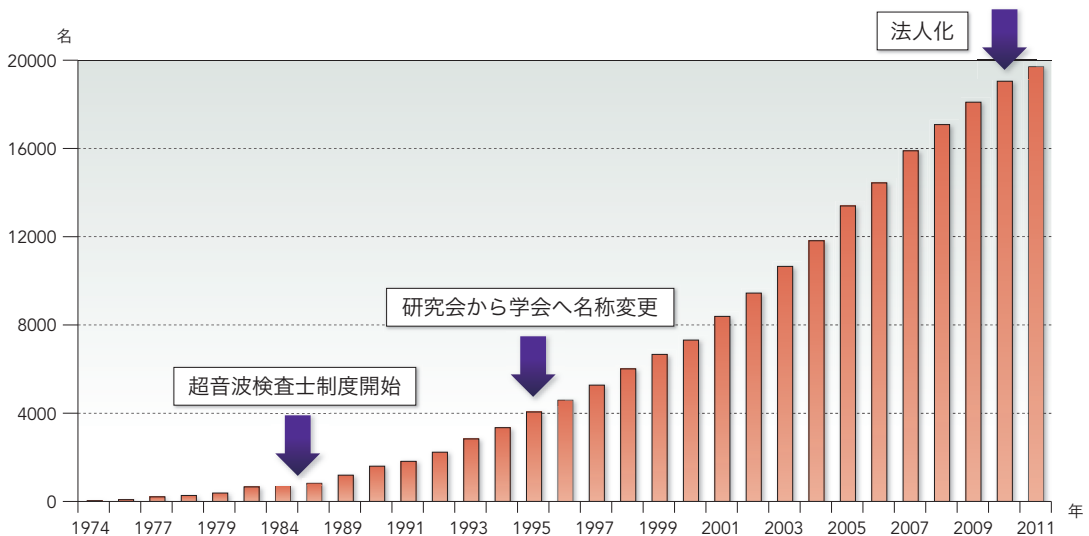
2010年には法人格を取得し、一般社団法人日本超音波検査学会として新たなスタートをきったところです。

2011年度の主な活動を以下に示します。

- 第36回学術集会：2011年6月24日～26日（つくば国際会議場）
- 地方会；全国8地区で計16回開催
- 機関紙「超音波検査技術」第36巻2号～第37巻1号の計6冊を発行
- 第108回～第112回医用超音波講習会の計5回を開催

超音波検査は、技術革新と相まって今後も発展するであろうし、研究や医療においてもっとも重要な検査法のひとつであり続けると考えられます。その中において技師の役割は極めて大きなものがあり、一般社団法人日本超音波検査学会が技師の学術的レベル向上を通じ、超音波医学の発展と国民の医療に貢献できることを強く望んでおり

図1 日本超音波検査学会会員数の動向



ます。そのためには、貴学会との連携をこれまで以上に強固なものとし、ご指導も頂きながら、共に歩いていくことが重要であると考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、社団法人日本超音波医学会のますますのご発展をお祈りしてお祝いとさせていただきます。

図2 超音波検査士合格者数と領域

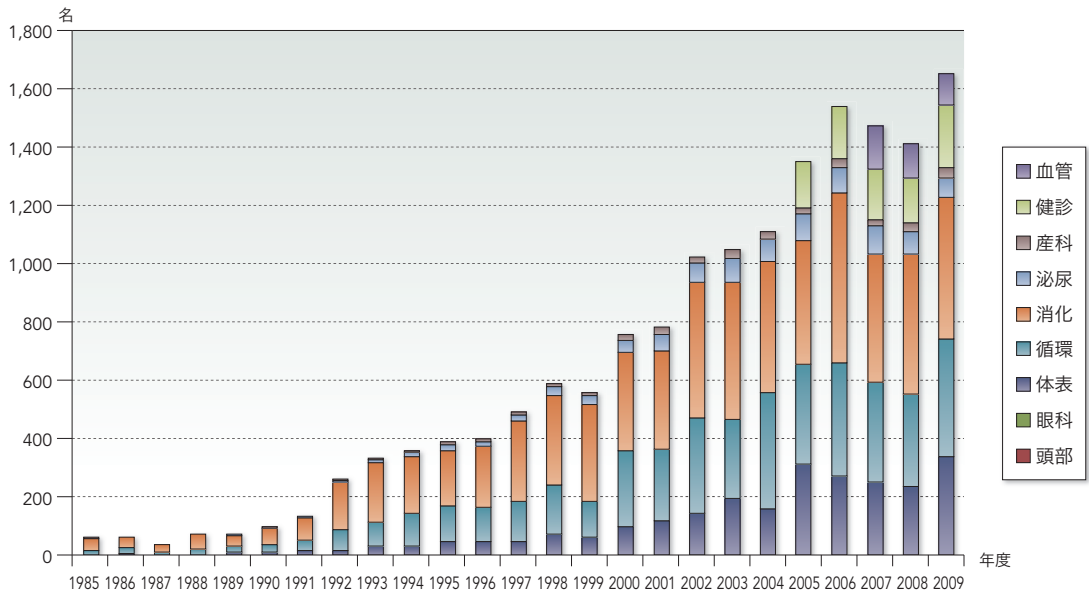


図3 超音波検査士合格者の所属学会

